

リイド社
八月薰全集



第5卷 「高嶺の花びら」

EP01
憧れの女性



八月薫全集 第5巻

「高嶺の花びら」

contents

- 憧れの女性……3
堀の向こうの奥様……19
初めての秘め事……35
憧れのネエさんの腫……51
猥褻キュレーター……67



本当にあったHな体験教えます





初めて
オレに向けられた
笑顔だった
……



でも
3年間の思いは
そう簡単に忘れられ
なかった。
オレは大学に通い
ながら飲み屋で
アルバイトを始めた。

やっぱり
先生は
大人だったん
だよな……
生徒のオレが
相手にされるわけ
ない。



小林
おい
あそこの客
ヤバくねーか。

そして
卒業から
1年半経っていた
ある日のこと。



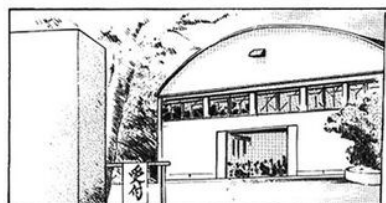
お客さん
大丈夫ですか？
お客さん。
ん！
もつと飲ませて。



……
これが助動詞。



他に
質問は？



とうとう
3年間の
オレの思いは
届かずじまいで
卒業を迎えた。



結局オレ
先生に迷惑しか
かけられなかった
みたいで……



卒業
おめでとう。
がんばって
ください。

先生
3年間ありがとう
ございました。











あ



先生。

ん...



ア...



あああ



先生。

小林
くん...



EP02
塀の向こうの奥様





あ、
あ、
いや、
あともう
一本だけ。

おい
吉住。
もう暗くなって
きたし
上がろうぜ。

お前も
練習熱心
だな。



オレは毎日
棒高飛びの練習
を口実に
あの家を覗いて
いる。



その時から
オレは彼女のことを
気になってしまった。

若くて
キレイな
奥さん……



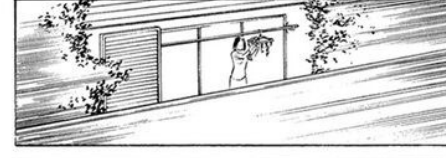
別に覗きが
趣味じゃない。



数カ月前
こうして練習中に
初めてあの女性を
見た時……



もう少し
……



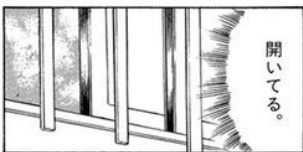
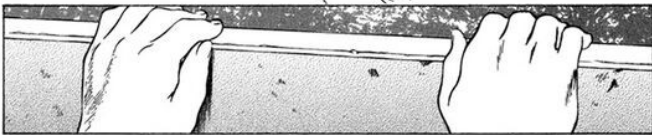
見えた。



塀の向こうの奥様



彼女が
お風呂に
入ってるのかな。



開いてる。



この時
オレは
どうかして
たんだと思う。



もう
気持ちを
抑えることが
できなかった。



まるでその潮気に
吸い寄せられる
よかったです。



飛んでる時しか
中は見ることが
できなかった。

だから
遠くからしか
彼女を見たことが
ない。



この時
オレはまだ
童貞だった。

どんな女性なんだろう
どんな声してるのかな。



塀の上まで
生い茂った庭木。



思い切って
声をかける：
そんな勇気はない。
彼女が出掛けるまで
張り込む
それじゃまるで
ストーカーみたいだ。

初めての時は
あんな女性に
相手してもらい
たい。

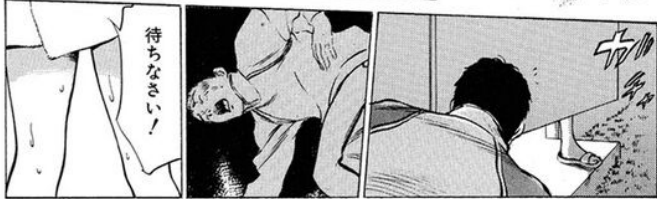
妄想ばかり
していた。



ああ：
もっと近くで
彼女を
見たい。



そんな
ある日のこと。



手足の震えが止まらなくて...

今までの人生でこれほど後悔したことはなかった。

オレはこれで何もかも終わった気がした。











EP03
初めての秘め事



その日以来
何故か彼女は
姿を見せなく
なってしまった。

そして
風呂場には
二度と近づかない
ことを彼女と
約束した。



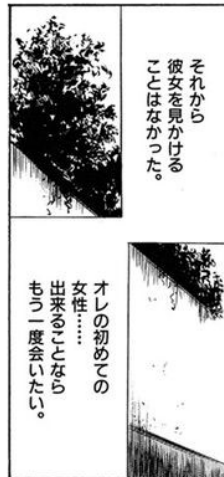
はい？

すると

今度は
正々堂々と
正面から。



気になって
我慢できず
思い切って
訪ねてみることに
した。



それから
彼女を見かける
ことはなかった。

オレの初めての
女性……
出来ることなら
もう一度会いたい。



いえ
そうじゃなくて
もう少し若い
女性が……

何言ってんだい
あたしはそんなに
若くないよ。

一向に
らちか
あかず……



姿を見せたのは
見たことのない
お婆さんだった。

あの……
こちらに
若い奥さんが
いると思うんですが。

え？ あんた
セールスかい？
うちは
何もいらぬよ。

初めての秘め事



友人からはこの環境をうらやましがられた。

学校もそこの学校へ転校することになったんだけど

うん

もう

いないの？

いきなり若い女性に囲まれて生活することになった。

もう

いないの？

うん

もう

いないの？

うん

もう



確かに
いことはいえ
女性ばかりの中の
生活は…



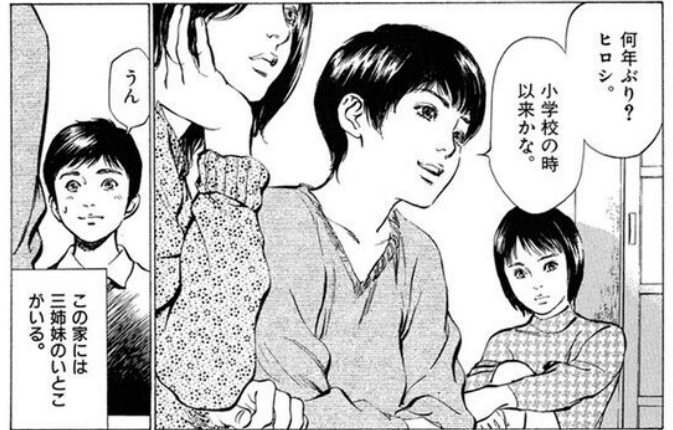
なにかと刺激的な
ことが多かった。

—でも



同じ一県内にある
母の実家へ
あずけられる
ことになった。

オレが14歳の時
両親が離婚して
俺の親権が決まる
までの半年間



うん

うん

うん

うん

うん

うん

うん

うん

うん

うん

うん

うん

うん

うん

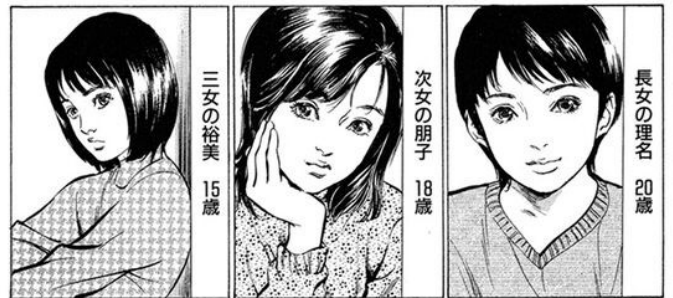
うん

うん

この家には
三姉妹のいここ
がいる。

小学校の時
以来かな

何年ぶり？
ヒロシ。



三女の裕美 15歳

次女の朋子 18歳

長女の理名 20歳



会社勤めをしていて
他の二人とは違い
かなり大人っぽく見えた。

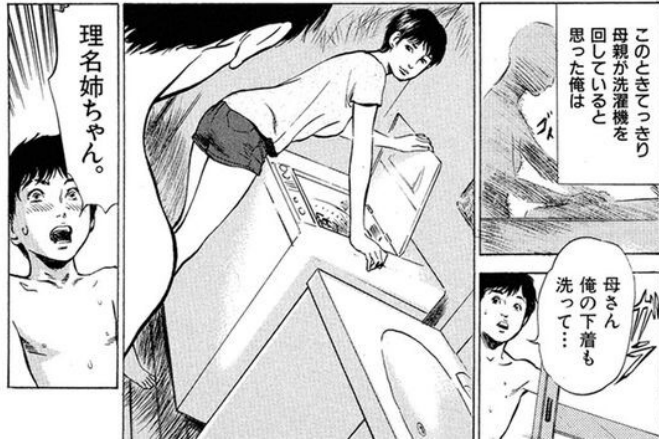
いろいろ
大変だったけど

この生活も半年が経ち
学校も夏休みに入った頃
俺の親権が父に決まった。



やっと馴れてきた
この家を
三日後には
出るようになって
いた。

早々に荷作りを
済ませた俺は
汗を流そうと
水風呂に入っ
ていた。



このときつさり
母親が洗濯機を
回している
思った俺は

母さん
俺の下着も
洗って...

理名姉ちゃん。



変なの
遠慮しなくて
いいのに。

いいよ
放って
おけば。

俺なりに
気を使って
肩身が
狭かった。



ここで
いいです。



この頃の俺は
まだウブだったし
...
ヒロシも
こっち来て
一緒に見れば
いいじゃない。



オレと母親に
部屋を空けわたす
ことになった
三女の裕美には
あまり好かれて
なかったし。

そんな中で
ちよつと気に
なっていたのが

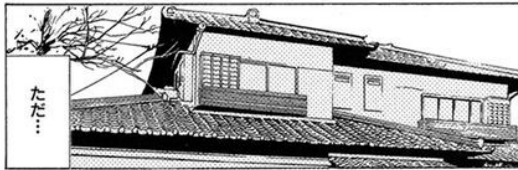


長女の理名姉ちゃんのことだった。

初めての秘め事



初めての秘め事



それから母には時々会ったけどあの家に行くことはなかった。









あ…
ダメ。
え

姉ちゃん

ああ

俺は理名姉ちゃんの
膣を突きまくった。

ずっと思い続けて
きた俺の願い。

俺は理名姉ちゃんの
膣に挿入した。



んあ…
ヒロシ

これが
姉ちゃんの

そんなに
掘げちゃ
だめ。

夢見ていた
姉のアソコは
甘ずっぱく
舐めるたびに
体をビクビクさせて
いた。

ああ
そこ…それ

ああ

EP04 憧れのネエさんの^{なか}膾



EP03 / END



こんには
俺は東京都
H市在住の
坊ちゃん(愛称)
サラリーマンです

これは俺が
サラリーマン一年目
に夏休みを使って
帰省した時の
話です

正直に言うと
ママに帰省するのは
他にも理由が
あったんです
それは
この女に
会うためでした

彼女は同じみかん農家の
一人娘で30歳
安〇ぐみに似ていて

家の跡継ぎがないため
昨年婿養子
貰ったんです

俺の美家はE県で
みかん農家をやって
います
この時は早生品種の
収穫時期でした

みかん畑は山の斜面など
で栽培してるので
どうしても手作業で
収穫しなければなら
なくて

収穫時期は毎年
帰省して収穫を
手伝っていたんです



彼女の事は
俺が子供の
頃から知って
いました
美人で清楚で
控え目で

以前から
うちの農家を
手伝ってくれたり
また手伝いに
行ったりして
なんです

こんな細細のみかん農家は
みかん農家同士の助け合い
が大事で

親孝行
だねえ
坊ちゃんは
この日も近所に住む
農家から手伝いに
来てくれたんです

いえ
帰省のついで
ですよ
それと
坊ちゃんと呼ぶの
やめてくださいよ
いやー
立派立派



毎年こうやって
手伝いに帰って
くるんだから
お父さんも
お母さんも
喜んでるよ

俺もう
社会人に
なったんです
から

俺の評判は
近所でも
なかなかの
ものだったと
思います

俺にとつては
近所の憧れのお姉さん
でした
初めて女を意識
したのも彼女が最初
だったんです

坊ちゃん
ちよつと押さえ
てくれる

彼女にも以前から
アタ名の坊ちゃんと
呼ばれていました

俺が思春期に
差し掛かった頃でした
うん
ネエさん

俺も血は繋がって
いませんがネエさんと
呼んでたんです



俺が進学して
東京の大学へ
通っている間にです

すく
ショックでした

仮にネエさんに告白して
いたとしても俺の一方的な
片思いだったので
きつと断わられてた
でしょう

でも



年齢を重ねるたびに
果実が熟すように
彼女の体は熟れていっ
たんです

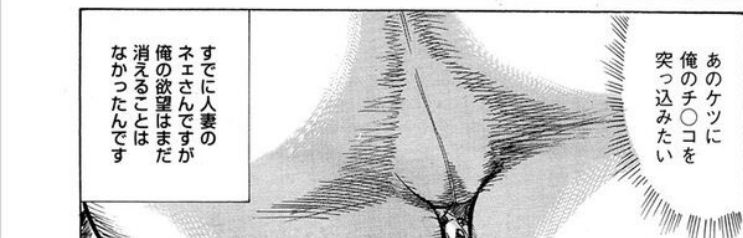
結婚したせいか 昨年と比べ
今年は特にそう感じました

あの体で
ダンナとセックス
しまくってるかと
思うと

悔しさと羨ましさで
チ○コのうずき
が止まりません
でした

あのオッパイを…
お尻を…

思っ存分
舐め回したい



あのケツに
俺のチ○コを
突っ込みたい

すでに人妻の
ネエさんですが
俺の欲望はまだ
消えることは
なかったんです



この時のネエさんは
今よりも若くて

ネエさんのお尻に
俺のチ○コは痛いくらい
ギンギンに勃起して
しまったんです

ネエさんにこんなに
欲情したのは
初めてでした

勃てる
のを
ネエさんに
も気付け
てたと思
います

それから
ネエさんのこと
は憧れから

性の対象へと
変わっていったん
です

その間近で見た
ネエさんの
お尻が
艶めかしく見えて
俺は釘付けに
なっていました
んです

同級生の女子とは違う
ネエさんが放つ大人の色気に
俺はすっかりやられてしまっ
たんです

よしよ

それからネエさんを
オカスに何度オナニー
したことが…

一度でいいから
ネエさんと
したい…

そんな希望は
叶えられること
はなく
ネエさんは結婚
してしまっ
たんです

ですが

ネエさんの
婿養子は
サラリーマン
でした

なので平日は
ネエさんとネエさんの
両親が農園の
仕事をしていました

俺は休みの最終日
ネエさんの農園を
手伝いました
そして収穫した
早生みかんを
選果場に運ぶため

俺がドライバーを
買って出たんです

ありがとう
坊ちゃんに
手伝ってもらって
助かるわ

いえ
これくらい

ただネエさんと
2人きりになれる
時間が欲しかった
だけでした

2人きりになった
からといって
人妻のネエさんに
今更どうにか
できるわけでも
ないんですが

そうかー
坊ちゃんも
社会人なんだ
ねー

ネエさん
その坊ちゃん
での
やめてくれ
よ...

フッフ
こめん

ただ

汗でシャツが張り付いた
その大きなオッパイを
チラ見してはドキドキ
していました

シートベルトでより強調
されてブラも薄ら
透けて見えたんです

見すぎて
一瞬事故りそう
になりながらも

せめてネエさんの姿
をスリネクタにと
チ○コを半勃ちに
しながら脳裏に
焼きつけていたん
です

選果場に
みかんを搬入
し終わり

後片付けのため
再び農園に
戻ることになっ
たんです

坊ちゃん
休憩に
しない？

はい

一通り片付き
木陰で休憩を
しました

これだけ長い時間
ネエさんといるのは
久しぶりで

あー
疲れた

それだけに...
俺の休みも今日が
最後だと思つと
名残惜しくて

自分の思いだけでも
伝えようか...

そんなことを
考えているうち

なんとネエさんはその場で
眠り込んでしまったんです

農園には
俺たち2人だけ
しかいない...

その無防備な
ネエさんの姿に
ドキドキして...



チ○コも今までに
ないくらいの早さで
勃起しました

ネエさんは目を覚ます
心配がなくて

興奮状態の俺は
夢中でネエさんの唇を
吸い続けたんです

すゝめ



なんとネエさんが
突然しゃぶり
返してきました



しかも

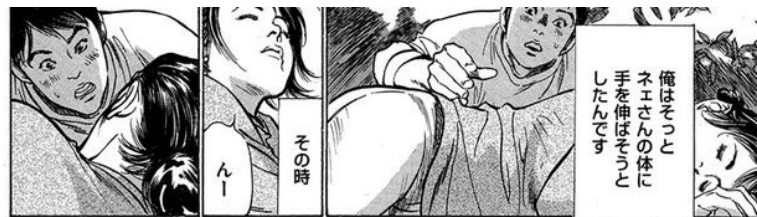
俺は驚き：
というより
こんな予想して
なかった展開に
動揺し：
これは夢なんじゃ
ないかと思っただんです

ですが
ネエさんの
ねっとりとした
舌使いと

んは…

そして

顔にかかる
ネエさんの
吐息…



俺はそつと
ネエさんの体に
手を伸ばそうと
したんです

その時

んー



寝返りを打った
彼女の顔が
こんな間近に
迫ったんです

俺は我慢の
限界でした



後のことなんか
考えられません
でした

その唇に吸い寄せ
られるように
ネエさんの唇に
キスしてしまっ
たんです



おお

柔らかいっ！

感動でした
フニョとしたその柔らかい
彼女の唇の感触に
心臓が飛び出そうなくらい
ドクドクして…

その鼓動で体全体が
揺れてしまうほど
興奮したんです





そのズボンを下着ごと引き下ろしたんです

ん

俺はネエさんのムチツとしたお尻を抱き寄せ

んぐ

ネエさん

すでにいろんなことを経験した人妻だったんです



うっ

それは俺が想像してた綺麗なオマ○コではありませんでした

全体が濃い毛に覆われてヒタが八の字に大きく垂れて赤い中身から汗が垂れていたんです



んはっ

俺はそのネエさんの臭いオマ○コにしゃぶりついたんです

グロくてすごく…エロいオマ○コだったんです

これがネエさんのオマ○コ

それに汗で蒸れたそのオマ○コは強烈な匂いを放っていて…



ネエさん

そしてネエさんは体勢を変えて俺のズボンのチャックを下ろして

ギンギンになった我慢汁が垂れるチ○コを取り出して

かっ



睨え込んだんです

んぐ

彼女の柔らかい唇が…舌が…臭いチ○コを包み込んで…

激しくしゃぶりはじめたんです



うあっ

その瞬間まるで電気が走ったみたいに体が震えました

ネエさんが俺のチ○コをむさぼるようにしゃぶって…

んぐ

んあ

う……

んぶ



俺はネエさんのことをまったく知らなかったことを実感したんです

んは

俺の中では清楚で控え目なネエさんでした…

ですが彼女はずっと結婚して30の女…

EP05 猥褻キュレーター



俺もネエさんに
挿入してる悦びと
快感と...

んが
うあ

俺のキ○コで
離れまくる
ネエさんの姿

んが
たちまち
絶頂に達り
つめていって

んが
出る...出るよ

んああ
ちようだいいい



ネエさんへの
思いの丈と共に
その膣へ
放出したん
です

うう

んが
んが
あああ

こんなに気持ちいい
放出感
は生まれて初めて
でした



それから
翌日

俺は
今までと違って
吹っ切れた気持ち
で東京に戻った
んです

今年の暮れに
また帰省する
予定です

ネエさんの幸せを
願いつつも
会えるのを心待ち
にしている
自分が居ます

EP04 END













うう

ぐはうあああ

ついに
彼女のアナルへ
想いの丈と共に
注ぎ込んだんです

ズッ

俺の精子にまみれた
彼女の股間を見た時

この上ない満足感に
包まれました

翌日片付けの後に
彼女は旦那が待つて
いるであろう家へ
帰りました

それ以来彼女とは
連絡を取っていません

お互いのためにそうした
とはいえ 思い出すと
少しせつなくなる体験です